

2025 年 10 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社 GRCS

代 表 者 名 代表取締役社長 佐々木 慈和
(コード番号：9250 東証グロース)問 合 せ 先 取締役管理部長 田中 郁恵
(TEL. 03-6272-9191)**業績予想の修正に関するお知らせ**

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2025 年 1 月 14 日に公表した 2025 年 11 月期の通期連結業績予想を修正いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正

2025 年 11 月期 通期連結業績予想 (2024 年 12 月 1 日～2025 年 11 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 3,953	百万円 115	百万円 89	百万円 60	円 銭 44.92
今回修正予想 (B)	3,333	△96	△127	△158	△117.56
増減額 (B－A)	△620	△212	△217	△219	
増減率 (%)	△15.7	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 2024 年 11 月期	3,288	44	25	112	85.05

2. 修正の理由

2025 年 11 月期の通期連結業績予想につきまして、第 3 四半期までの進捗状況を鑑み、通期見通しを精査した結果、期初に発表いたしました業績予想の修正が必要であると判断いたしました。

主にセキュリティソリューション事業において、退職等の自然減を補う採用ができず専門人員が減少し、計画に見込んでいた新規案件が獲得に至らず、また既存顧客へのアップセルが振るわず、足元の売上高が減少していること、GRC プラットフォーム事業においては、前年同期比で売上高が増加しているものの、期初の計画には届かない見込みであること、フィナンシャルテクノロジー事業においては、既存顧客からの追加プロジェクトの受注が半年間遅れたことに加え、前期受注した証券会社の大型プロジェクトが中断となったことから、改めて全社の案件の受注状況及び進捗状況を精査した結果、通期で減少

分を補う売上高を確保することが難しい見込みとなったため、売上高の予想値を修正いたします。またフィナンシャルテクノロジー事業において、株式トータルソリューションシステム開発の追加コストが発生、また期初に販売費及び一般管理費として見込んでいた労務費の一部は売上原価として計上することから、売上総利益も減少が見込まれ、全社の採用教育費やその他コスト等の販売費及び一般管理費を抑制することで若干の損益改善効果は見込まれるものの、各段階利益につきましても、上記のとおり修正いたします。修正予想の数値は、2025年11月期第3四半期累計期間の実績値に2025年9月の実績値及び2025年10月、11月の見込み値を加算する形で算出しております。各予想数値の修正理由の詳細は、以下のとおりであります。

(売上高)

セキュリティソリューション事業は、退職等の自然減を補う採用ができず専門人員が減少し、計画に見込んでいた新規案件が獲得に至らず、また既存顧客へのアップセルが振るわず、足元の売上高が減少していることから、期初予想の売上高 2,534 百万円を 401 百万円減の 2,133 百万円（前回予想比 15.9%減）に修正いたします。GRC プラットフォーム事業は、前年同期比で売上高が増加しているものの、期初の計画には届かないことから、期初予想の売上高 401 百万円を 52 百万円減の 349 百万円（前回予想比 12.9%減）に修正いたします。フィナンシャルテクノロジー事業においては、既存顧客からの追加プロジェクトの受注が半年間遅れたことに加え、前期受注した証券会社の大型プロジェクトが中断となったことから、期初予想の売上高 1,016 百万円を 166 百万円減の 850 百万円（前回予想比 16.4%減）に修正いたします。

以上の結果、売上高は期初予想では 3,953 百万円と見込んでおりましたが、修正予想では 620 百万円減の 3,333 百万円（前回予想比 15.7%減）となる見込みであります。

(売上総利益)

セキュリティソリューション事業は、売上高の下方修正に伴い、期初予想の売上総利益 744 百万円を 113 百万円減の 631 百万円（前回予想比 15.2%減）、GRC プラットフォーム事業は、期初予想の売上総利益 152 百万円を 54 百万円減の 98 百万円（前回予想比 35.6%減）に修正いたします。フィナンシャルテクノロジー事業は、売上高の下方修正に加え、株式トータルソリューションシステム開発の追加コストが発生、また期初に販売費及び一般管理費として見込んでいた労務費の一部は売上原価として計上することから、期初予想の売上総利益 445 百万円を 225 百万円減の 219 百万円（前回予想比 50.6%減）に修正いたします。

以上の結果、売上総利益は期初予想では 1,341 百万円と見込んでおりましたが、修正予想では 392 百万円減の 949 百万円（前回予想比 29.3%減）となる見込みであります。

(営業利益)

全ての事業において、採用教育費やその他コストを抑制し、期初予想の販売費及び一般管理費 1,226 百万円を 180 百万円減の 1,045 百万円（前回予想比 14.7%減）とし、若干の損益改善効果を見込んでおりますが、売上高及び売上総利益の下方修正に伴い、期初予想の営業利益 115 百万円は 212 百万円減の営業損失 96 百万円となる見込みであります。

(経常利益)

営業外費用として、当連結会計年度に発生した社債発行費を 3 百万及び香港支店にかかる外国源泉税を 8 百万計上しております。また今後も為替変動の影響を受けるものと仮定して為替差損 6 百万円を見込んでおります。

以上の結果、営業利益の減少が大きな要因となり、期初予想の経常利益 89 百万円は 217 百万円減の経常損失 127 百万円となる見込みであります。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

特別利益及び特別損失が発生する見込みはございません。

税金費用については、将来の課税所得を合理的に見積もり、控除可能な繰越欠損金に係る繰延税金資産を算出し法人税等調整額を算出しております。

以上の結果、期初予想の親会社株主に帰属する当期純利益 60 百万円は 219 百万円減の親会社株式に帰属する当期純損失 158 百万円となる見込みであります。

(注) 上記の予想数値等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上